

しもつけ環境フェアに展示と講演で参加！

2023年1月29日（日）～2月5日（日）石橋公民館（石橋複合施設）において、「下野市消費者まつり」と「しもつけ環境フェア」が同時開催され、当会は環境市民会議の関係団体として専用ブースで展示参加（期間中）し、講演会（初日のみ）の講師としても参加しました。以下、概要を紹介します。

日時 2023年1月29日（日）9:30～12:30

（展示は1月29日～2月5日まで開催）

会場 下野市新石橋公民館 1階ロビー&2階会議室

当会の参加内容

- ・パネル展示（団体紹介、活動事例紹介）
- ・参考資料展示（ごみ問題、水資源環境、他）
- ・新型水力発電機等のビデオ上映
- ・プラごみ汚染啓発冊子の販売
- ・体験型ごみ分別クイズ
- ・講演「市民の目線から地域のごみ問題を考える」
（10:30～11:30 会議室5 講師：益子事務局員）

主催 しもつけ環境市民会議、下野市

協賛 栃木県環境美化協会



石橋公民館の玄関と環境フェアの看板



環境問題を考える会のブース



1階ロビーの共同展示会場

事前の広報不足が懸念されましたが、初日当日は350人の来場者（主催者発表）で賑わい、開催期間中も連日市民の来場がありました。当会のブースではごみ分別クイズが今回も好評でしたが、県南広域的水道整備事業の問題に関心を示す来場者も見られました。

当会講師による講演「市民の目線から地域のごみ問題を考える」は、コロナ感染対策のため過去2年間延期され、今回ようやく実現したのですが、会場から多くの質問が出され、ごみ減量化等に対する市民の関心の高さが窺えました。当日の様子は後日、地域FM局の「FMゆうがお」でも取り上げていただきました。



2階会議室での講演

脱原発のスタンディングアピールに参加！

福島原発事故の後、県内でも下野市を含む多くの市町議会が「脱原発のエネルギー政策を求める意見書」採択し国に提出しました。しかし、いまだ3万人以上の方が避難生活を強いられる一方で、増え続ける汚染水は海洋投棄されようとしており、原子力緊急事態宣言はいまだに解除されず、これだけの被害に誰も責任をとらないままになっています。にもかかわらず、政府は国民の合意もないまま、これまでの脱原発依存政策から180°転換し、原発の新增設や運転期間60年への延長等、原発回帰・推進の政策を閣議決定しました。もし老朽化した東海第2原発を再稼働して重大事故が起きれば、地元茨城県に限らず栃木県を含む首都圏は壊滅の危機に晒されます。このような背景の下、原発回帰・再稼働反対の統一行動として、宇都宮市内でのスタンディングアピールに当会有志が参加しました。以下、概要です。

- ・日時 2023年3月11日(土) 12時~13時
- ・場所 JR宇都宮駅コンコース東口
- ・内容 横断幕・のぼり旗、プラカード、チラシ配布等
- ・参加者 当会有志を含む13名
- ・主催 原発いらない栃木の会(当会も参加する市民団体)
- ・企画 とめよう!東海第二原発首都圏ネットワーク



思川開発建設所で南摩ダム工事進捗を確認！

2023年3月7日(火) 県南地域の地下水をいかに市民ネットと関係市町の住民有志が思川開発建設所を訪問し、2市1町に表流水を卸売りしようとする思川開発事業・南摩ダム工事の進捗状況を確認しました。

- ・日時 2023年3月7日(火) 10時~11時
 - ・訪問先 水資源機構・思川開発建設所(井上総務課長他)
 - ・訪問者 地下水ネットおよび2市1町の市民8名
- 結果として、ダム本体(日本初の本格的CFRD)の工事は半分程度だが、工事全体は順調に進んでおり、令和6年度内(令和7年3月)には予定通り完成の見込みとのこと。

貴重な山林資源や生態系の消滅と引き替えに南摩ダムの建設は進みますが、重要なのは「南摩ダムの水を地下水の代わりに買うか否かは、あくまでも2市1町の自主的判断に任されている」ということです。よって今後とも各市町の対応に住民は引き続き注目して行く必要があります。



徳島県上勝町のゼロウェイストを現地視察！

徳島県上勝町(人口1,500人)にはごみ焼却炉がありません。ダイオキシン対策と容器包装リサイクル法を契機に町を上げてごみ減量化に取り組み、2003年に日本で初めてゼロウェイスト(2020年までに排出ごみをゼロにする)宣言をしました。

当会の世話人でもある加藤市議がこの4月に現地を訪問視察してきました。概要は以下の通りです。

- ・日程 4月24日(月)~25日(火)
- ・訪問先 上勝町ゼロウェイストセンター、他
- ・住民は町の中心部にあるごみ集積所に自分でごみを持参し全てを分別する(当初34分別→現在45分別)
- ・これだけ分別資源化しても2020年でのリサイクル率は80%で、20%が焼却・埋め立てごみとして残るが、その果敢な取り組みには参考とすべきも多い。

(全プラ資源化、紙容器禁忌品の資源化等)

なお、詳細は7/23(日)の総会記念講演で報告の予定です。改めて案内しますので、是非ご参加下さい。



春の環境講演会に講師として参加！

2023年5月20日（土）小山市中央公民館で「春の環境講演会」が開催され、当会の世話人がごみ問題の講師を担当しました。これは主催者である「小山の環境を考える市民の会」からの依頼を受けて実現したもので、内容は小山市でのごみ回収現状を事例とし、先の環境フェアで行った講演内容を補足・バージョンアップしたものです。以下、概要を紹介します。

日時 2023年5月20日（土） 13:30～15:30

会場 小山市中央公民館 視聴覚室

演題 市民の目線で地域のごみ問題を考える

講師 益子友幸さん（環境問題を考える会・事務局）

主催 小山の環境を考える市民の会

講演の主な内容

- ・ 小山市のごみ分別ルールとごみ排出量
- ・ 小山広域組合のごみ処理フローと関連施設
- ・ 燃やすごみ減量化の必要性と資源ごみ分別の効果
- ・ 減量化の方策としての指定ごみ袋制とその課題
- ・ 容器包装リサイクル法の課題と3R全国ネットの活動
- ・ 3Rの優先順位と拡大生産者責任の意義
- ・ プラスチックによる海洋汚染と水・大気汚染の実態
- ・ 世界のプラごみ削減対策と日本のプラ資源循環促進法
- ・ 全国自治体や事業者の取り組み事例

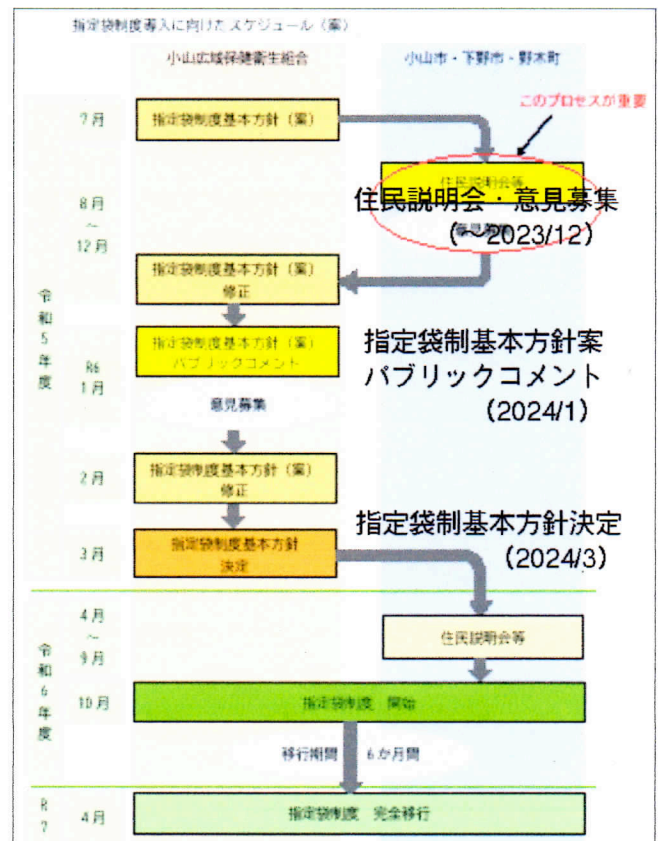
なお、上記講演内容を更にバージョンアップし、7/23（日）の総会記念講演で紹介する予定です。詳細は改めて案内しますのでよろしくお願いします。



小山広域廃棄物減量化対策推進検討会の報告

既に会報58号等で紹介した通り、小山広域では燃やすごみの減量化が喫緊の課題です。そのため小山広域組合では「廃棄物減量化対策推進検討会」を立ち上げ、その公募委員として当会世話人も参加してきました。その検討会も5月25日（木）の第6回で終了したので、これまでの経過と今後の予定等、以下に紹介します。

- ・ 燃やすごみ減量化の方策として、組合が当初から企画していた「市場価格による指定袋」の導入は、検討会で多数決により採択され、地域毎の住民アンケートも実施された。
- ・ 上記アンケートで「市場価格の指定袋では何も変わらない」との意見が半数を占めたため、指定袋の効果を出すには市民の意識改革が必須と考え、当会委員はごみ袋の名称変更（燃やすごみ→燃やすしかないごみ）を提案した。（既に柳川市、亀岡市で採用実績あり）
- ・ 市民に減量化を依頼するだけでなく、組合の主体的な取り組みも必要として、当会委員は上記名称変更の他に現行ごみ分別の見直しも要請した。（プラ資源循環促進法への対応＝全プラごみの資源化、紙製容器での禁忌品の見直し資源化等）
- ・ 「燃やすしかないごみ」へ名称変更案は採用され、袋のデザイン案も作られた。
- ・ 全プラごみの資源化、紙製容器禁忌品の資源化は組合で今後検討して行く。
- ・ 指定袋制の導入は今後右図のスケジュールで進められるが、今年中に予定されている住民説明会はパブコの前に市民の意見を聞く場として重要。



原発いらない栃木の会総会&講演会に参加!

福島原発事故の後、「依存度を限りなく低減する」とされてきたはずの原発について、政府は「最大限活用する」との方針に180度転換しました。それまで認めてこなかった60年を超える原発の稼働延長や老朽原発の建て替えさえも推進しようとしています。政府はその理由を気候変動への対応やウクライナ紛争によるエネルギー危機を背景とした電気料金の高騰を抑えるためと主張しています。しかし、いまだフクシマの終息が見えない中で原発回帰に転換してもよいのでしょうか。原発を最大限活用することで本当に電気料金は安くなるのでしょうか。こうした背景の下、6月3日(土)に宇都宮市内で原発煎らない栃木の会の総会&講演会が開催され、当会の有志も多数参加しました。以下、概要です。

日時 2023年6月3日(土) 13:30~16:30
会場 栃木県総合文化センター 特別会議室
総会 13:30~14:15 / 講演 14:30~16:30
演題 原発回帰の問題点とあるべきエネルギー政策
講師 大島堅一さん(龍谷大学政策学部教授)
主催 原発いらない栃木の会(当会も参加する団体)



当日は不測の事態(台風の影響で新幹線が不通)により、講演は急きょオンラインでのスクリーン映写に変更されましたが、大島教授の講演は明快で分かりやすく、講演後には活発な質疑も行われました。講演内容は以下のようにまとめられました。

- ・原子力発電、原子力産業は衰退の一途を辿っている。
- ・原発は最も高い電源であり、電気料金の底上げ要因になっている。
- ・電力逼迫問題と原発は全く関係がない。
- ・温暖化対策目標達成には原発は高すぎ、遅すぎ、効果が低すぎて役に立たない。
- ・一刻も早く、脱原発を達成する必要がある。

環境問題を考える会第26回総会&記念講演 予告ご案内(7/23 市民活動センター)

環境問題を考える会は1998年に発足して以来、市民の立場から地域の環境問題に取り組み続け、去年は25周年の節目を迎えることができました。これも会員をはじめ多くの方のご支援とご協力によるものであり、感謝申し上げますとともに、今後ともご支援・ご協力よろしくお願い致します。

今年の総会は7月23日(日)に下野市市民活動センターで開催予定で、概要は以下の通りです。記念講演では地域のごみ問題を広範な視点で取り上げます。詳細は別紙チラシやホームページ・Twitterで案内します。講演にはどなたでも無料で参加できますので、皆さま、是非ともご参加下さい。

日時 2023年7月23日(日) 13:30~16:30(講演は14:15~)
会場 下野市市民活動センター 研修室3(下野市緑3-5-1、Tel: 0285-32-7290)
講演&講師 1. 環境問題としての地域のごみ問題/益子友幸さん(当会事務局)
2. 徳島県上勝町のゼロウェイスト視察報告/加藤好雄さん(当会世話人、下野市議)
主催 環境問題を考える会(協賛:しもつけ環境市民会議)

会員募集中!「環境問題を考える会」では広く会員を募集しています。

地域の環境を大切にしたいと思う皆さん、是非ご参加下さい。

- 年会費:1,000円 ●払込先:郵便口座番号 00160-1-139315
- 問い合わせ先(事務局)

岡本 ☎0285-44-5280 / 磯辺 ☎0285-44-6621 / 益子 ☎0285-44-6891

E-mail: kankyomk@ja2.so-net.ne.jp

Homepage: <https://kankyomk.wordpress.com>